

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【伝えたいことを自ら決めたり選んだりして、コミュニケーションが充実する活動の工夫】

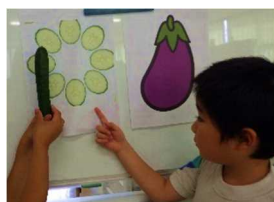
チャレンジ学級の児童は、ALTとの学習をととても楽しみにしており、特にゲームやアクティビティの活動は、児童が英語を学ぶ上でのモチベーションアップにつながっている。英語を使うことに対する恐れや恥ずかしさを軽減することで、自然な形でコミュニケーションが成立し、自発的に英語を用いる機会が増えた。さらに「野菜・果物」の学習では、ALTとのやり取りを基に、自分の食べたいかき氷の味について、好きなものを選択肢の中から選んだり、複数の味のバリエーションを考えたりしてALTや友達に伝えた。多様な活動から、コミュニケーションを楽しむことを経験できた。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【相手意識をもってより意欲的に聞いたり伝えたりする活動の工夫】

相手意識をもって積極的にコミュニケーションを図ることは外国語活動の経験が豊富ではない児童にとって難しいものだがALTや教師がモデルとなり、どのように聞いたり話したりすれば相手により具体的に伝わるかを教師が示すことで安心して取り組むことができた。また「間違えても大丈夫」という雰囲気づくりや「Nice try!」等の挑戦を評価する言葉かけを意識することで失敗を恐れないポジティブな発言が見られた。また、児童の発達段階に応じた内容や児童の知的好奇心に沿った内容を取り上げ、外国語を用いてコミュニケーションを図る目的や必然性を伴った内容にすることで、自分の考えや気持ちを伝え合う力の素地となるように心掛けた。チャレンジ学級の農園や生活科の学習で育てている野菜について取り上げ、児童の興味や関心のあるものや他教科と関連付けたテーマを設定し、児童が既に学習して知っている内容であれば、安心して英語そのものに注意を向けやすくなり、さらに英語で話されている内容を関連付けて意味を推測することもできると考え活動を工夫した。



(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

【言語への関心をもち、英語の音声や表現を高めていく工夫】

夏休みの思い出について、ALTと教員が楽しく会話している姿を児童に見せて、授業だけでは得られない実践的な英語力と異文化理解を深める場を体験させた。児童は旅行についての会話を見聞きし、会話の中に出てくる国名、交通手段、食べ物、日数、出来事等の単語を聞き取っていた。また、教師が相槌をうったり、「Really?」「That's good!」「Oh, cool.」等のリアクションを積極的にとったりすることで伝え合う楽しさを感じていたようだった。「英語の学習」から英語を介して「互いを知り、つながるための時間」と変化していった。また授業の初めにフリートークを行うことで、児童が「自分も伝えてみたい。」「会話を楽しみたい。」という期待感をもって学習に臨むことができた。さらに、学習中に難しい発音について児童から「もう一度、確認したい。」というリクエストがあり、英語の音声や表現を高めていこうとする姿勢が見られた。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

- クイズやゲーム等の活動で、日本語でも楽しいものは英語でも楽しいといった経験を積み、音声面を中心としたコミュニケーションを通して、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだ。
- ジェスチャーや表情などを手掛かりとすることで、相手の意図をより正確に理解したり、自分の思いをより正確に伝え合ったりすることができるなど、言葉によらないコミュニケーションの役割があることもさらに指導したい。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

- 自分のことや身の回りの物について、実物を見せるなどしながら、簡単な語句を用いて話すなど、児童にとって負担にならず安心して取り組み、生き生きと表現できた児童が多かった。
- 英語を用いた簡単な会話がさらに主体的にできると望ましい。聞く力を高め、自分が習得した言い方でアウトプットすることを意識させ、簡単な語句や基本的な表現でやり取りができるようにしたい。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

- 日本語とは違った英語の音声やリズムなどに十分慣れさせるとともに、児童に英語を使って自分の思いが相手に通じた、あるいは、相手の思いが分かったという、言語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせることができた。
- 児童が言語活動の目的や、使用場面を意識して行うことができるように具体的な課題を設定し、必要な語句や文などを取捨選択できるようにしたい。また、ペアやグループなどの学習形態を工夫したり、特性に合わせたデジタル教材を作成したりして支援していきたい。